

人口減少への対策は

危機感を持って対応する



しもむら かつゆき 議員  
下村 勝幸

**問** 黒潮町の人口減少が顕著になっている。国の人口推計によると、平成32年には10310人へ、更にその15年後の平成47年には、7518人になると推計されている。町行政の全ての施策の基本になる人口であるが、総合振興計画など様々な施策にこれらの予測はきちんと織り込まれているのか。

**答** 大西 町長  
総合振興計画にも国勢調査の結果を基に、町独自の推計で算出し織り込んでいる。目標数値の変更は考えていないが、振興計画の見直しをかけているので、どうするか考えてみたい。

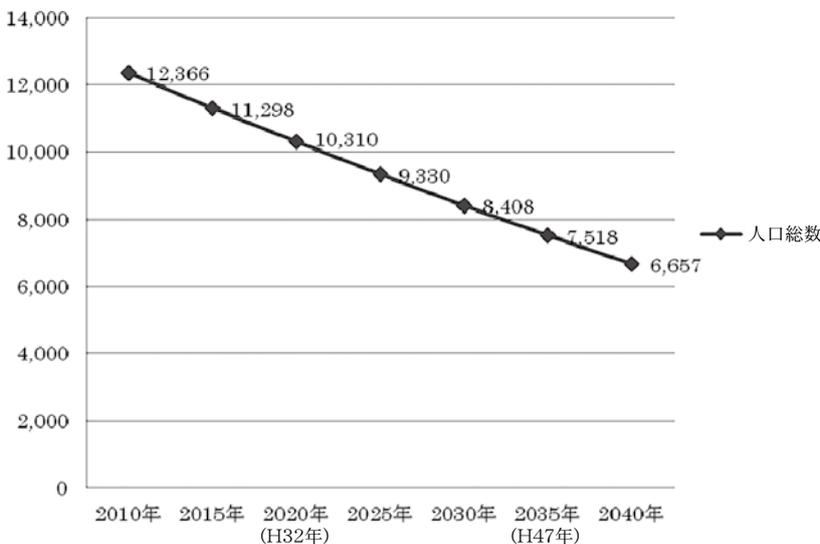
**問** 町内の各地区人口の推移は、財政シミュレーションや公共施設の配置等には大変重要なポイントだと思う。子どもたち向けの施設や高齢者向けの施設など、今後どういったまちづくりで臨むようなイメージを持っているのか。

**答** 植田 副町長  
26年度の計画を立てるために各課ごとにサマレービューを行っているが、特に健康福祉課などが将来の集落単位での人口減少を予測した提言を行ってくれている。これらを踏まえながら様々な施策に取り組んで行きたい。

**問** 町内人口を維持する根本的な手立てに対するアイデアはあるか。

**答** 植田 副町長  
なかなか、根本的な手立ては見つからないが、本町は人口自然減の状態に陥っている。今後は、人口減少をゆるめる施策を地道に継続的に行っていきたい。

一直線で人口が減少すると予測される黒潮町人口



黒潮町人口推計  
国立社会保障人口問題研究所 出典